

大飯原発から30km圏内 滋賀県高島市 今津町の訪問記

2017. 8. 22 避難計画を案ずる関西連絡会

7月22日、高島市の今津町を訪問しました。大飯原発から30km圏内には、滋賀県高島市の今津町と旧朽木村の一部が含まれ、避難対象人口は合わせて約1,000名。内訳は、住民約540名と2つの社会福祉施設（角川ヴィラ、橡生の里）入所者・職員約440名です。

今津町は、福井県との県境に位置し若狭町に隣接しています。5つの地区の内、4地区を訪問しました。

山間の集落で、土砂災害の危険区域も多く、自然災害だけでも避難が困難な地区でした。道が狭いこと、福井県に隣接し避難ルートが重なること等、原発避難については多くの方が不安を感じていました。

原発から30km圏内にあり、福島原発事故を繰り返してはならないという思いが強く、再稼働反対だと語ったり、住民説明会を開いて不安や疑問に答えるべきだとの声も多く聞かれました。



国道303号線の県境標識



【滋賀県の避難計画の概要：高島市今津町（旧今津西小学校区）】

地区名	世帯数	人口	集合場所	避難中継所		避難先	
				スクリーニング場所	県内の避難所	県外の拠点避難所→	避難所
つのがわ 角川	43	71	救護施設 角川ヴィラ 高島市今津町 角川1161	今津総合運動公園 高島市今津町 日置前3110	今津中学校 高島市今津町 弘川924	大阪府枚方市 総合体育館 枚方市中宮大池 4-10-1	未定
あますがわ 天増川	9	12					未定
ほうざか 保坂	19	36					未定
すぎやま 杉山	32	33					未定
むくがわ 椋川	26	48	ECC学園高等学校 高島市今津町 椋川512-1			大阪府高槻市 総合スポーツセンター 高槻市芝生町4丁目1-1	未定
小計	129	200					

滋賀県の住民避難計画等から作成

※1 住民 200 名の中には、杉山地区にある社会福祉施設「すぎやまの家杉山寮」「杉山ホームすぎやま」の入所者約 30 名が含まれている（滋賀県に確認）。

※2 1 頁の表には載っていないが、角川地区には 2 つの社会福祉施設がある。高齢者・障がい者等の入所施設で、「角川ヴィラ」200 名、「椽生の里」160 名、職員も含めて両施設で約 440 名。



福井県・滋賀県の避難計画より作成

◆原発事故時の避難経路

各地区の狭い道路→国道 303 号→国道 161 号

【全体的な特徴 避難の困難性】

1. 今津町の 5 地区は、限界集落に近づいており、高齢者が多いため避難はとりわけ困難

以前は林業等で栄えていたが、人口も激減し、一つの集落の世帯数も少なく、高齢者が多い地区となっている。天増川地区は、9 世帯 12 名の地区。保坂地区と椽川地区には合わせて中学生が 3 名程いるが、バスの本数もほとんどなく、約 8km 離れた今津中学校までタクシーで通っているとのこと（タクシー代はもちろん行政負担）。地区の今津西小学校は 2 年前に廃校になった。
2. 地理的にも避難は困難を極める
 - ・避難経路の国道に出るには、山間の狭隘な道を通るが、以前も土砂災害などが発生している。
 - ・2013 年 9 月の台風で、がけ崩れで孤立状態になった地区もあった。
 - ・冬は雪深い地区で、自治体の除雪も追いつかない程。
3. 避難経路は、福井県民の経路と重複

住民の避難経路は国道 303→国道 161 だが、福井県住民の避難経路と重なっている。そのため渋滞によって避難が困難になると不安を持つ人が多い。

4. 高齢者が多いため、地区の集合場所に歩いて行くことも困難

滋賀県の避難計画では、徒歩で集合場所に行くことになっている。しかし、地区内は広く、地区ごとの集合場所まで高齢者が歩いて行くことは困難。

5. 安定ヨウ素剤の服用には時間がかかる

- ・安定ヨウ素剤は避難集合場所に備蓄してあるが、配布・服用は事故後に県や高島市の職員等が来てから指示することになっている。そのため服用までに相当な時間がかかる。
- ・昨年の防災訓練では、大津市の赤十字職員が来て配布・服用する訓練だった。実際の事故時には、職員がいつ到着するかも分からないため、事前問診・事前配布すべきとの声もあった。

6. 県内避難先の「今津中学校」は、大飯原発から約 37km で近すぎる。

県外避難先（大阪府枚方市・高槻市）については、ほとんどの人が知らなかった。

- ・県外避難では「拠点避難所」が決まっているだけで、最終の避難所が決まっていなかったことも知らされておらず、不安を感じていた。

【訪問した地区の様子】

1. 杉山地区

- ・福井県若狭町との県境にある地区。県の資料では 32 世帯 33 名となっていたので、独居老人が多いのだろうかと思って訪問した。住民「33 名」とは、社会福祉施設「すぎやまの家杉山寮」「杉山ホームすぎやま」の入所者約 30 名を含めてのことで、住民はほんのわずかだとのこと。
- ・福井県との県境近くでは、行政の資料等はポストに入れていくだけで、特別に避難計画の話など聞いたことはない、枚方市に避難するというのも初めて聞いたとのことだった。
- ・道を挟んだ福井県若狭町の住民は、避難する時は、国道 303 から 161 で逃げる。原発のある敦賀方向に行くようなことはしない等と話していた。
- ・2つの社会福祉施設（すぎやまの家杉山寮、杉山ホームすぎやま [グループホーム]）で話を聞いた。杉山地区はほとんど過疎になって、20 年前頃、全く人がいなくなった時にここの施設ができた。昔は民家があったが人がいなくなっていったとのこと。
- ・施設に入所している人は、一般の人と一緒に避難するのは難しいと思う。避難先が普通の体育館では無理。安定ヨウ素剤は、人数分は備蓄している。いつ服用するかは県から連絡があるようだ。
- ・住民説明会があれば、不安に思っていること等を伝えてみたいと語る人もあった。

2. 天増川（あますがわ）地区

- ・以前は林業が盛んな地域だったが、現在は 9 世帯 12 人の地区。
大きな家に一人で住んでいる人もある。
- ・避難道路の国道 303 号に出るまでは、天増川沿いの狭い道路を通ることになる。過去に土砂災害も発生している。
- ・透析している人、目の不自由な人、車いすの人等があり、数年前の洪水で孤立した時は病院に行くのも大変だった。
- ・昨年の防災訓練には 4~5 名が参加。原発はないほうがいい、原発なしでも生活できていると語る人もあった。



杉山地区から天増川地区への道と、清流天増川



天増川地区の公民館 避難訓練ではここにバスが迎えに来た

・防災訓練に参加した人の話では、区の公民館（写真）にバスが来て、今津市の総合運動公園まで行った。避難先は知らなかった。

・ある家の倉庫には除雪車があり「この地区では、各家が持っている」。市道は自治体が除雪してくれるが、区道や私道は除雪してもらえないので、自分たちで除雪するために必要とのこと。

- ・公民館前のバス時刻表は1日2回しか来てくれないのに「ご利用前に電話予約が必要」と書かれてあった。

3. 角川（つのがわ）地区

- ・原発の近隣住民として、原発に不安の声聞いた。福島原発事故の悲惨な状況を見ると、明日は我が身だと思う。人間の行うことだから、どれだけ気を付けていても、どのようなことが起こるか分からない。一方で、事故は怖い、原発が動くことで助かる地元民もいるとの思いもある。



角川地区

- ・安定ヨウ素剤は、今津町4地区の避難集合場所（1頁の表参照）になっている角川ヴィラに備蓄してある。避難時は角川ヴィラまで皆歩いて行き、そこからバスに乗ることになるようだ。
- ・どれだけ避難計画を立て準備していても、いざ事故が起こった場合、滋賀県は琵琶湖から船を出す等いろいろと言っていたが、実際にそんなことができるか疑問に思っている。
- ・年配と若い人の考えが異なっている。年配の人は、福島であるような事故あったから絶対起こらないとは言えないと考える。若い人は経済的なこと、電気代等を考え、原発がないとやっていけないと考えているようだ。
- ・原発に近い自治体として滋賀県が一所懸命やっているというのは感じる。
- ・枚方市に避難する話は聞いたことがなかった。枚方と言われてもどのようにして行けばいいのか。交通手段はどうするのか、バスで行くと言ったって、皆一斉に避難するから国道は詰まるだろう。
- ・（福井の人も国道303号を通ってくることについて）手前で遮断してしまえ。冗談だがと、笑って話されていた。
- ・過疎で高齢者ばかりで、日中は若者は仕事に出かけていない。火災等があったら、社会福祉施設の角川ヴィラと椽生の里の大阪自彊館職員が来るという協定を結んでいる。地区の文化祭等も大阪自彊館の施設を借りている。大阪自彊館職員とは皆顔なじみで助け合っているとのこと。
- ・高島市で住民説明会が行われるという話は聞いていない。行政と話をする機会があったら、避難計画の問題点について聞いてみる。
- ・2つの大きな社会福祉施設（角川ヴィラと椽生の里、入所者と職員で約440名）
この地区には、2つの大きな社会福祉施設がある。高齢者や障がい者の施設で、入所者は角川ヴィラ約200名、椽生の里約160名、両施設の職員を含めて約440名になる。今津町の避難住民200名の2倍を超える施設関係者の避難は可能なのか。

私たちの質問に対して滋賀県は、「角川ヴィラ、椽生の里の方について、大阪自彊館の中で避難先の施設は確保されている状況です。避難手段は基本的に施設所有のマイクロバスや公用車になります」と回答している（8月4日）。本当に、避難の準備ができていいのか、2つの施設

の本部がある大阪市西成区の大阪自彊館に400名以上が避難することが可能なのか、「公用車」とは何を意味しているのか、誰が何台確保するのか等、県は具体的に示す必要がある。

- ・角川ヴィラは、今津町の椋川地区を除く4地区の避難集合場所にもなっている。自然災害で孤立する可能性があるため、県はヘリコプターを使った避難も検討している。角川ヴィラもヘリ発着地の候補となっている。滋賀県30km圏内全体で約1,000名の避難に、何台のヘリを準備しどれだけの時間を考えているというのだろうか。実効性がないのは明らかだ。

滋賀県が検討している、自然災害により避難経路が使えない場合のヘリ救助候補地は下記

「大飯地域の緊急時対応取りまとめに向けた、地域固有課題の整理」2016年10月19日

<http://www.pref.shiga.lg.jp/bousai/gensiryoku/senmonkakaigi/files/281019siryo1.pdf>

4. 保坂（ほうざか）地区

- ・人口がどんどん減り、この辺りは「限界集落」と話されていた。
- ・福島原発事故を繰り返してはいけない、原発には反対だとはっきり語る住民もあった。
- ・避難経路が福井と高島市民が使うことで混雑し、避難できなくなるという点を問題にしていた。
- ・安定ヨウ素剤は、大津市の赤十字の職員が来て配布・服用するという想定で、到着はいつになることやら、ひどい話だと。
- ・高島市は原発事故の被害だけを受ける、なんの恩恵もない。昨年の防災訓練の後に、国道303に入れないように交通遮断したらどうかという意見も出ていた。
- ・冬場は除雪が間に合わないこともある程に雪深い地域だそうだ。
- ・福井県側の熊川宿は降雪量が比較的に少ないため、トラックがチェーンを付けずに水坂峠を上っている途中で、スリップして道路を斜めに塞いでしまう事故が結構ある。そのため、冬場は普段でも交通渋滞が起きやすい地域。また、避難経路になっている国道303の水坂トンネル内で事故があった場合、う回路が確保されていないことも心配だと。
- ・県外避難先が大阪の枚方市だということは、話した住民は誰も知らなかった。また、拠点避難所として枚方市の総合体育館が決まっているだけで、最終避難所が決まっていないことを伝えると、不安だと話されていた。
- ・私たちが配布した被ばく量や避難経路の地図入りの資料を熱心に読んでいる方もあった。



5. 椋川（むくがわ）地区の避難集合場所 E C C 学園高等学校

時間がなくなり、椋川地区を回ることはできなかった。そのため、避難集合場所になっている E C C 学園だけを見学。この地区は、今津町でも他の4地区とは離れている。E C C 学園高等学校は、廃校になった今津西小学校の椋川分校（これも廃校）の跡地。ここは通信制の学校で、年に数回のスクーリングで使用されるだけのようで、訪問した時は誰もいなかった。避難集合場所として機能できるのだろうか。この地区の県外避難先は、他の4地区とは異なり、高槻市の総合スポーツセンターとなっているが、その先の最終避難所はやはり決まっていない。

